

(別紙様式2)

平成24年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔 京丹後市立峰山幼稚園 〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
創意ある教育課程を編成し、主体的に活動し、健康な心と体で生きる力をもった幼児の育成を目指す。		○挨拶が定着し、自分から挨拶する姿が多く見られた。 ○戸外活動を好み、友達と目的を共有して遊ぶ姿が多く見られた。 ○PTAと連携した行事や奉仕活動、学習の機会の設定は保護者同士の交流や子ども理解につながった。 △保護者に活動の様子をその都度知らせる工夫を行う。	・保護者・地域社会との連携に努め、信頼され開かれた幼稚園づくりに努める。 ・小学校に併設の環境を生かした教育を進める。 ・協同性や言語力向上の取組を推進する。 ・人権尊重の精神・規範意識の芽生えの心を育成する。 ・職員研修を充実させて教育内容の向上に努める。
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	○自己の発揮と他者とのかかわりを通じた、協同性の育成 ・自己肯定感を育て主体的に活動する力をつける。 ・人間関係を深め、友達と協同して遊びや活動をし、学び合いができる力をつける。 ・他者とかかわる際に味わう感情体験を大切に、育ちにつなげる。 ・コミュニケーション力や規範意識など、様々な力を総合的に育む。	(1) 多様な他者との出会いや体験の機会を設定する。 ・施設の見学や訪問・行事や取組にかかわった交流・体験活動 (2) 幼児が主体者となる遊びや生活の充実に向け、環境設定を工夫する。 ・戸外遊び・廃材製作コーナー・朝の会活動・当番活動 (3) 集団生活ならではの経験や、友達と取り組む醍醐味が味わえる活動を行う。 ・飛天出演・案山子作り・宿泊保育・運動会・収穫祭・ジュニア文化祭・劇遊び・共同製作 (4) 異年齢交流保育を推進する。 ・ランチルーム給食・園外活動・運動会縦割りチーム・誕生会	○様々な人とのかかわりの中で刺激を受けて自分の見方や考えを広げ、遊びに発展させていく姿が見られた。 ○遊びこめる環境の工夫や、きっかけ作り、時間の確保に努めたことで、友達と目的を共有し集中して遊ぶ姿が多く見られた。 ○異年齢活動の多様な取組により、年長児にはリーダーとしての心の成長が生まれ、園全体の一体感が広がった。 ○朝の会活動や当番活動により、友達と協力しあう姿勢が強まり、責任感も芽生えた。 △保護者に対して、活動の様子をその都度具体的に知らせる工夫が必要である。
	○言語力向上の取組推進 ・はっきりと挨拶や返事ができる力をつける。 ・人の話をしっかりと聞き、自分の思いを言葉で表現する力を身につける。 ・絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうとともに語彙力を豊かにする。	(1) 挨拶の奨励や話を聞く態度等について徹底する。 ・毎月合言葉を作成し、家庭と連携した取組 (2) 自分の思いを言葉で表現する。 ・感動体験の機会設定や話し合い、発表の機会設定 ・短歌作りや紙芝居作り、劇遊びなど多様な言語遊び活動 (3) 絵本や物語に親しむ機会を多く設定する。 ・一日一冊絵本読み聞かせの実施 ・絵本の貸し出しと絵本カードの取組 ・PTAと連携し「夏休み絵本カード活動」	○年間を通して挨拶運動を取り組み指導したことで、大きな声の挨拶は定着しつつある。 ○言葉で表現しにくい子どもには、思いを代弁し、根気よく指導を続けたことで少しずつ自信をつけ会話が向上している。 ○言葉で表現しなくなる感動体験の機会をとらえ、話したり聞いたりする場を設けたことは、自分の言葉で表現する事に繋がった。 ○「目と目を合わせて聞く」と繰り返し指導した事は具体的でわかりやすく、聞く姿勢が少しずつ定着してきた。 △場所が変わると挨拶ができにくい傾向があり、今後も指導を継続したい。

	<p>○人権尊重の精神・規範意識の芽生えの心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・してはいけない事や、言ってはいけない事等に気付かせ、生活の中に決まりやルールがあることを理解させる。 ・幼児が互いに大切な存在であることを認識できる教育を展開する。 ・ボランティア精神の芽となるような温かい心を育てる。 	<p>(1) グループ活動や当番活動を行う。</p> <p>(2) ルールのある遊びを積極的に取り入れる。</p> <p>(3) 生活の中のちょっとした場面を見逃がさず指導する。</p> <p>(4) 当番活動やチーム活動等、協同する活動の機会を多く設ける。</p> <p>(5) 社会の中で人に喜ばれ自分が役に立ったと感じられる活動の体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設訪問・クリーン作戦・アルミ缶やエコキャップの収集 	<p>○遊びや活動の中で起こるいざこざや葛藤体験の場をとらえ、教師が仲立ちとなり話し合いを繰り返してきたことで、自分たちで解決しようとする姿や、規範意識の芽生えが見られた。</p> <p>○異年齢を小グループに分けた活動で、友達の中で自己を発揮したり、協力しあったりする力が向上した。</p> <p>△規範意識を育むために、保護者にも事例を示す等して意識づけていく必要がある。</p>
子育て支援	<p>○家庭、地域との連携と子育て支援</p> <p>○家庭の教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者地域から愛され信頼される幼稚園を目指す。 ・保護者同士をつなぐ場を提供し、子ども理解や子育ての仲間づくりを支援する。 	<p>(1) 地域の子育て基地として、地域から愛される幼稚園を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園開放」を月1回実施 ・市役所に絵の展示・飛天と秋祭りへ出演・ジュニア文化祭出演 <p>(2) 家庭の教育力向上に向け支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流の機会の設定（毎週金曜は園まで迎え） ・「園長とお喋り会」を毎月1回実施 ・園だよりやスライドによる活動の報告 ・研修機会の提供 ・親子体験活動の機会の提供 	<p>○園の行事やPTAと共催の行事等を通して保護者同士の交流が深まった。</p> <p>○便りや写真の掲示で教育内容を知らせたことは教育理解や、子ども理解に繋がった。</p> <p>○地域の祭りや老人会で踊るなど、積極的に地域行事に参加し地域との連携に努めた。</p> <p>○保育ルームを設けて講演会と参観を行い、参加し易い状況を作り好評であった。</p>
幼小連携	<p>○幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容や指導方法のあり方の相互理解を進める。 ・幼稚園児と小学生の交流で、思いやりや優しさ憧れ等豊かな心を育む。 	<p>(1) 園児と児童の交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同行事の実施（焼き芋大会・合同避難訓練・合同音楽鑑賞会） ・小学校行事への参加（吉原フェスティバル・児童会遊び・運動会・かき初め大会・プール掃除） ・小学校行事の見学（田植え・マラソン大会・大縄大会・作品展） ・幼稚園行事で交流（団子作り） <p>(2) 職員の交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会・保育参観・交換授業 <p>(3) PTAの連携を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み清掃作業 	<p>○意図的な交流や、日常生活での交流を通して小学生に憧れの気持ちを持ち、良いモデルとして刺激を受けていた。</p> <p>○運動会や吉原フェスティバルに参加したことで、小学校と幼稚園のどちらの保護者にも連携への理解が深まった。</p> <p>○夏休みの合同研修会を実施し、相互理解への取組が一歩進んだ。</p> <p>△小学生と幼児の交流行事を実施するにあたっては、事前の話し合いや事後の成果と課題や反省点の話し合いをもつ必要がある。</p>
研修	<p>○校内研修の充実</p> <p>○教員の資質向上</p>	<p>(1) 年間研修計画により、指導力の向上をめざした理論研修、事例研究に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月案、週案、会議の充実 ・毎日の終礼による保育の反省と、個々の園児の課題の共有 	<p>○幼稚園公開保育の際に市内保育所と小学校にも参加を呼びかけ、積極的な研修を行い幼稚園教育の理解や連携に繋がった。</p> <p>○実践記録を基に話し合いを行ったことは、教師の資質向上や方針の共有に繋がった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は3歳児保育が始まることから、今まで以上にPDCAサイクルに基づいた質の高い教育実践に努める。 ・預かり保育もあり、全職員の会議がもちにくいため、職員が教育課題や個々の幼児の課題を共通理解できるような会議や研修の工夫を行う。 ・園舎が小学校校舎に一時的に併設されたことを生かし、挨拶運動を同時期に行うなど、一歩進んだ連携を行いたい。 ・事例研修や公開保育などで園内研修を充実させるとともに、保育所や学校にも公開を行うなどして幼稚園教育の理解に向けて発信する。 ・積極的に情報発信を行い、保護者や地域、PTAとの連携を強化し教育活動の質の向上につなげる。 		

(別紙様式2)

平成24年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔 京丹後市立大宮幼稚園 〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
笑顔いっぱいげんきななかま！！ 感じて考えてみんなでつながっていく力を持った子の育成を目指す。		24年度より開設	1 主体的に活動し、感動する体験を大切にして豊かな感性を養う。 2 自らの健康や生活に関心を持たせ、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 3 人とのかかわりを持つ力を育む。 4 幼保一体化の施設として幼稚園と保育所の良さを認め合い、活かせる運営に取り組む。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	○主体的に活動し、感動する体験を大切にして豊かな感性を養う。	・ 戸外活動や園外保育などを通し自然の中での発見や感動を持つ。 遠足(こうのとりの郷公園)・畑作り・野菜作り・小動物の飼育・芋ほり・落ち葉拾い・焼き芋・泥んこ遊び・プール遊び・朝マラソン・虫取り・雪遊び ・ クッキング活動を通して食べることの楽しさを知り食物について関心を持つ。 よもぎ団子・夏野菜カレー・お月見団子・焼き芋ポップコーン・クッキー・おでん・ホットケーキ ・ 異年齢交流を通していたわりの気持ちや憧れの気持ちを育てる。 散歩・遠足・運動会・発表会・発育測定・午睡・クリスマス会・新年おめでとう会・お別れ会・節分・ひなまつり会・誕生会 ・ 節水活動を行う。 プールの水をペットボトルに入れ野菜の水やり	○ 天候や体調、クラスの活動に合わせ、静と動の切り替えとして戸外での活動を積極的に増やしていったことで心が安定しトラブルも少なくなった。 ○ 遠足に行き、コウノトリを間近で見られ、数羽一斉に飛び立つ姿に感動した子どもたちが言葉や絵で素直に表現できた。以降積極的に話したり、伝えたりする姿が見られてきた。 ○ 野菜づくりを、土運びをして畑を作ることから始めたので、栽培にも意欲的になった。またクッキングをして、食べることの楽しさや嬉しさを感じることができた。 ○ 色々な活動を子ども達と相談しながら進めてきたことで、生活発表会や最後の参観日で子ども達が内容を決め進行するなど、主体的に活動を進めていく姿が見られた。 ○ 節水について子どもたちと話し合いを持ち、プール遊びの内容や後の水の活用など考え行動することができた。 △ 異年齢活動を進める上で、常に全員で行動したり活動したりしなければという意識が強いため、子どもを待たせる時間が多くなりがちになっていると感じた。異年齢活動について検討していきたい。

子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談 ・支援センターの利用 ・一時預かり制度の利用 	<p>○子育ての不安や悩みを聞く場所をもち、アドバイスなど行い安心感を持ってもらったり、支援センターや一時預かりを利用してもらうことで母親の心の負担を軽減することができている。</p> <p>△子育てが園まかせにならないよう、保護者としての責任や役割について啓発していく必要がある。</p>
特色のある園づくり	○幼保一体化の施設として幼稚園と保育所の良さを認め合い、活かせる運営に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所の職員間でカリキュラムの内容を検討しあう。 ・幼稚園の職員だけでなく保育所職員の研修の機会を増やし、全職員の資質の向上に努める。 ・乳児保育と幼児教育（保育）の連携を図る。 	<p>○幼稚園と保育所の壁を作らないよう「大宮こども園」の子どもという職員の意識が高まったことにより、子どもたちの間にも意識の違いや壁は見られない。</p> <p>○研修の場を確保することで、幼児教育の考え方が向上し保育や教育の内容にも少しずつよい変化が見られるようになった。</p> <p>△幼稚園独自の活動や保護者参加型の活動を増やしてほしい保護者と、働いているので休みが取りにくい保護者の両方の要望がある一体化施設であり、同一活動で進めることへの理解が得られるよう働きかける必要がある。</p> <p>○3歳児の幼稚園児の受け入れは、保育所での対応経験のある職員が多くスムーズに教育・保育を進めていった。</p>
家庭・地域との連携	<p>○自らの健康や生活に関心を持たせ、リズムある生活が習慣になることを意識させる。</p> <p>○人とのかかわりを持つ力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登園後の活動着を導入する。 朝マラソン・体操・戸外遊び ・社会人講師（ボランティア）によってさまざまな体験をする。 絵本の読み聞かせ・お茶会・マリンバの生演奏・新体操・草取り・腹話術・手品・AETと交流 ・高齢者と交流する。 大宮苑・グループホームおおみや 	<p>○登園後活動着（短パン）に着替えることや朝マラソンや体操などを行うことで体力や生活のリズムがついた。</p> <p>○先生や親以外の人と出会いたくさんのことを教えてもらったり、色々な人から温かく包まれていることを感じたりして、新しいことに挑戦する刺激を得た。</p> <p>△全児が交流できない行事もあり、内容に合わせて多くの子ども達が体験できるようにしていきたい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら挨拶のできる子どもにする。 ・自ら考えようとする環境の工夫をする。 ・職員間の報告・連絡・相談を徹底する。 ・園での子どもの活動内容や様子を分かりやすく保護者に知らせる工夫をする。 ・幼稚園と保育所の保護者間の理解が深まる取り組みをする。 		

(別紙様式2)

平成24年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立網野幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
(1)幼児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)自分の思いや考えを表現したり、行動できる力を養う。 (3)幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を養う。 (4)常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 (5)地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。		<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育方針を分かっていたために、写真入りの便りを工夫したり教育活動のパンフレットを配布。分かりやすいと好評だった。 ・多くの子どもたちに自分の思いを言葉で表現する力が付いた。特にお話しを聞いてイメージや想像する力、それを表現しようとする力が付いた。 ・運動遊びを意図的に取り入れる中で、自分に自信が付いたり、自己肯定感を感じる子どもが増えた。そこから他の活動へも意欲を示すようになった。 ・緊張感や失敗を恐れるあまり、大勢の人の前に立つと大きな声を出すことができない子どもが特に年長児に多かった。 ・食事のマナーの定着が難しかった。 	～さまざまな人とかわり、ふれあい、つながり合って、自分に自信をもち大好きになるために～ ○人・もの・自然と主体的に関わるような体験・経験を通して、 (1) 様々なものに関心をもち、意欲的に遊びに参加する。 (2) 相手の思いに気づき、自分の考えも言えるようにする。 (3) 生活や遊びの中で、小さくてもヤル気や達成感を育み、実感させる。 (4) 個々の子どもの大好きな居場所(遊び・友だち・場所など)を確保・保障し、幼稚園を安定できる場所にする。 (5) 友だちと協同して、活動したり考えたり遊んだりする中で、人と対応する力や助け合ったり時には主張したり譲る力も身につける。 (6) 異年齢集団の中で、自分自身が『できる』と思える振りかえりや、相手を思いやる行動・言葉のやり取りを繰り返し積む。 (7) 子ども達みんなを、小さな博士や名人にする。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・人・もの・自然と主体的にかかわる体験や経験を通して、さまざまな人とかわり、触れ合い、つながり合って、自分に自信をもち大好きにする。 	(1) 職員の気づきのアンテナを鋭敏にして、子どもの言動に注意し、気になるところや問題は、子どもたちと話し合って解決していくようにする。 (2) 意図的な異年齢集団での活動や機会をとらえ、互いに慣れ親しんだり助け合ったりできるようにする。 (3) 個々の子どもの小さな変化に対応し、大いに褒めたり気持ちを受け止めながら、情緒安定を図ったり自己肯定感を育んだりする。 (4) 子どものつぶやきにしっかり耳を傾けるとともに色々な環境設定に心がけ、一人一人の子どもが輝く居場所を見つけたり作ったりする。 (5) 個々の子どもの小さな努力に対応し、大いに褒めたり気持ちを受け止めたりしながら、情緒安定を図り、自己肯定感や達成感を育み自信へとつなげる。 (6) 自分の思いを年齢相応の言葉を使ってしっかり話せる子どもを育てる。	○日々の活動や園の行事に向けて日々の反省や話し合いを重ね、職員の意識を一つにしながら保育を進めた。その中で子ども達一人一人が自分の力を出そうとするようになった。その子なりの自信や力をもつようになったり、大きい子が小さい子を優しく助けてやったりするようになった。 ○網野幼稚園特有の【宝の部屋】の廃材を使っでの製作を子ども達が楽しむようになり、自分の思いや考えを入れながら自分らしさを発揮するようになった。 ○3歳児4歳児の交流を重ねるとともに、5歳児が両年齢をフォローすることを繰り返すことにより、互いを信頼しあい、優しく対応し、待つてやったり自然に教えあったりするようになった。そのことが大きい子たちの自信にもつながった。 △繰り返しの会話や発表などでは力を発揮し、役割や責任を果たす力もつけてきたが、普段の会話のやり取りでは自分の思いや考えを言葉で分かりやすく表現したり、伝えたりすることはまだまだ難しい子が多い。

子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園開放により、就園前の親子での保育参加を行い、子育ての安定を図る。 ・園だよりやクラスだより、懇談会などを通して、保護者に子どもの状況を知らせ共有し、共育の意識を育む。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 月に1～2回の園開放を行い、幼稚園に慣れるとともに、遊びの意味を知らせたり親子での遊びや行事参加を行う中で、子育てのヒントにできるようにする。 (2) 支援ボランティアの協力を依頼する。 (3) 子どもの状況を分かりやすく知らせるために、映像を見てもらう機会を設定したり、便りに写真を導入したりする。連絡だけにならないように、啓蒙や保育内容の意義を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報で知らせるとともに、町内の各保育所に案内を貼り知らせることで、早くから沢山の参加者があった。 ○写真を入れたクラスだよりをA4にして2回発行する、行事などの号外を出す等、子どもの姿や園の教育の様子を保護者に分かりやすく知らせることができた。 ○1学期のまとめの会をはじめ、2学期3学期も映像を通して園の教育の具体的な様子や子どもの変容などを繰り返し知らせ、理解を図った。
特色ある園づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な身体作りをする。 ・地域との連携に心がけ、園の応援団作りをする。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自己肯定感を育むために、日々意図的に身体を動かす取り組みを続ける。 朝マラソン・体操・リズム運動・キッズサッカー・ドッジボールなど (2) 地域の社会人講師を招き、共に遊んだり学んだりすると共に、地域の高齢者施設に出かけかかわりを深める。 お茶・キッズサッカー・丹後園訪問など。 (3) 夏休みにはプール開放をして、規則正しく生活する手立てにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日身体を動かす取り組みを繰り返すことで、段々に慣れて音楽に乗って身体を動かすことの楽しさも知ることになった。特にリズム運動は、楽しく動くことができると同時に、繰り返しの中でどの年齢も静と動の区別を自ら考える力を身につけることができ、他の活動の時にもつなげることができた。 ○地域の社会人教師との交流は、毎年繰り返す中で安定化・熟成し、子ども達も楽しみにするようになった。 ○夏休みのプール遊びは、保護者も巻き込み夏休みの戸外活動の保障となった。実施に当たっては、預かり保育との兼ね合いや職員の研修を考慮する必要がある。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を繰り返し、子ども達が不安にならず避難できるようにする。 ・保護者の危機管理に対する理解を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 火事や台風などの園内の避難場所だけでなく、東北大地震を教訓に、津波の訓練も行う。 (2) 保護者との連携を大切にし、保護者も巻き込んで海抜の高い避難場所への避難を試みる。 (3) 緊急連絡網を使っての避難訓練を行う。 電話のみの訓練・迎えに来る訓練（1学期に2回） (4) 日頃の子どもの怪我に留意し、保育者が子どもの動きから目を離さない、小さな怪我也その様子を保護者に連絡する、等の細かい配慮をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○津波の避難を想定し、「銚子山」や「地場産センター」への避難訓練を実施し、保護者の一部も参加することができた。 ○訓練を繰り返す中で段取りがよくなり、時間短縮もできた。職員間の連携・協力もうまくできるようになった。 △子どもの怪我だけでなく、子ども同士のトラブルの解消に向けて、うまく連携ができるようになってきた部分もあるが、職員一人一人が更に責任感をしっかりとつ必要もあった。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩教員が後輩を指導する・援助する体制を常とする連携を深める。そのため、【発達の研修】や【週案の検討会の自主活動】を継続的に実施し、資質向上とともに互いに議論できるような職員関係を構築する。 ・園外の活動を早くから計画し、下見し、網野の地域の中へどんどん出かけて地元を知り、子ども達自身が地域をイメージできるような保育を取り込んでいく。 ・エピソード研究で、園や担任自身が想定した子どもの発達・育ちに到達したのか、保育内容や配慮、環境づくりはどうだったかを振り返る。 ・【宝の部屋】の補充のため、PTAをはじめ地域の協力を得るよう広報などにて協力を得られるようにする。 ・研修の機会を度々設定し、地域の有識者を招き、学習していく。 ・保育所・小学校との共同の研修をする。 		

(別紙様式2)

平成24年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市立丹後幼稚園]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
生き生きと遊び心豊かでたくましい子の育成 ・全職員が保護者や地域の人と協力し合って心豊かでたくましく優しさがあふれ意欲的に遊びを作りだす子を育成する。		<ol style="list-style-type: none"> 1 異年齢児との交流は機会を重ねるごとに豊かなかわりかかわりが持て深まってきたので、引き続きつなげ育てていく。 2 こども園の運営と幼児教育の理解を更に深め、保護者や地域へ通信を配信する。 3 保幼小連携については、代表者会議を定期的に持ち、互いの理解を深めることができた。職員研修を持ち、さらに深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢交流を通して人と人とのつながり、いたわりや優しさ思いやりの心を育む心豊かな経験を行う。 ○聞く力や話す力を意識して計画的に進める中で、自分の思いが言葉で表現できるよう、言葉力の向上を図る。 ○地域や保育所・小学校との連携を深め、自然体験・生活体験・社会体験を豊かにする。
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	○ 異年齢の交流を通して、いたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 ・年少者に対する優しさや責任感を育てる。 ・年少者は、優しく支えてもらうことにより、憧れ・学び、育ちあう。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中での交流をする。 発育測定時の衣服の着脱の手助け、いろいろな活動の見本等 ・合同散歩や遊びの交流をする。 時期や活動にあわせて計画する。 ・行事を通して異年齢交流をする。(運動会・遠足・発表会等) 縦割りチームの取組(ペアの友達を決める) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育計画に沿って取り組んだ結果、年長児になった喜びを持ち、年少児に対し慣れない中でも回を重ねるごとに関わり方が上手になり、優しく接することが出来るようになってきた。 ○年長児は、おとなしく自分の気持ちがなかなか言えない子が多かったが、園のリーダーとしていろいろな活動を進めたり相談したりしあう中で、自分の思いが表現できるようになってきた。年少児も年長児のすることに興味を持ち挑戦しようとするようになり、共に育ち合う姿が見られた。
	○ 言葉力の向上 ・人の言葉や話などを聞こうとする意欲や態度を育て、経験したことや思いなどを自分なりの言葉で表現する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が積極的に明るく挨拶をして、保護者や子ども達が気持ちよく挨拶できる環境作りをする。 ・幼児が自分なりの言葉で思いを表すことが出来るように、話しやすい雰囲気作りをする。 ・読み聞かせボランティアや、保護者による絵本の読み聞かせを計画的に行う。 ・園所有の絵本を家庭に貸し出し、家庭でも絵本に触れる機会を持つようにする。(親子の触れ合いも含めて) 	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の保育の中、人の話を聞く、目と目を合わせて話をする等に気をつけ進めてきた。心も安定し、落ち着いて話を聞くことができるようになってきた。 △担任とは挨拶を交わすが、他の職員には挨拶できない子もいる。誰にでも自然な挨拶が出来るような環境作りが必要である。また、職員は積極的に挨拶をするよう心がけていたが、アンケートでは一部挨拶しない職員がいるとの指摘を受けた。全職員で気持ちよい挨拶が出来るよう徹底していききたい。 ○職員による日々の読み聞かせや、ボランティア等多くの方による絵本の読み聞かせを通して、様々な絵本に親しめた。

<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と触れ合い、故郷のすばらしさに気づき愛着を深める。 ・いろいろな人とのさまざまな体験を通して、生活を豊かにする。 ・園の様子を地域に知らせ、園への関心を高め、支援をしていただく。 ・家庭と連携し、家庭の教育力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩を通しての地域の方と触れ合う。 ・いちがお園との交流をする。(年2回) ・地域の方にお世話になり、野菜栽培活動と合鴨放鳥の手伝いをする。 ・サッカー教室に参加する。 ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせを聞く。 ・各地域に園だよりを配布し、園の活動を知らせる。 ・園全体で、子育て講演会、クラス懇談、個人懇談会等行う。 ・生活点検の取組をおこなう。(園全体で) ・生活の様子を保護者に伝え、家庭と共に考え育てていく。 ・月1回保護者の読み聞かせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域の方に園だよりを配布し、園への関心を持ってもらったり、ボランティア活動にも快く協力してもらうことが出来た。 ○高齢者との触れ合いや人との触れ合いが苦手な子もいたが、高齢者に喜んでもらうことにより、園児も嬉しくなり、優しく関わろうとするようになってきた。 ○保護者の読み聞かせは、園児も喜び有益であった。次年度は多くの保護者の参加となるように工夫したい。 ○生活点検をすることにより、親子で生活の見直しができたり、一つの目標に向けて、一緒に頑張る姿が見られた。 ○園の様子を事あるごとにクラス便りや日々の保護者との話の中で話したり、必要な保護者には面談なども定期的に行ったりして、信頼関係を深めることが出来た。
<p>幼小連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携を密にし、スムーズにつながりにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校との交流をする。 中学校職場体験(間人中学校) ・小学校学習発表会前の発表鑑賞と交流をする。 ・小学校のお楽しみ会に参加する。 体験入学・授業体験・学校給食試食 ・保幼小の担任が集まり、子ども達の実態を把握し、共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校に興味を持って見たり聞いたりするようになり、交流によって学んだことを園生活の中で自分達のものにして活用したりし、とても良い刺激となった。 ○保幼小連携で、子どもの実態交流をし、それぞれの教育のポイント、大切な所など共通理解できた。
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士や未就園児保護者のコミュニケーションの場を作り、子育ての安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ママのおしゃべり会」を行い、子育てについて日頃の悩み等を出し合える場をつくる。 ・子育て支援センターや、園開放で未就園児との交流を行う。 ・園開放(第1・3金曜日)、園庭開放(第2・4金曜日)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度から預かり保育が始まり、働いている保護者がいたため、ゆったりと時間を設けて「ママのおしゃべり会」を持つことは出来なかったが、親子遠足などの行事は家族で楽しむことができた。 △園開放・園庭開放の利用者が少なかった。(支援センター利用者が多い) 園だより等で知らせているが、他にも手立てを考える必要がある。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異年齢との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・3歳以上児との交流はもちろんだが、乳児との交流も今以上に持つ機会を作り、生活・遊びの中でいたわり・優しさ等の気持ちを持ったり、時には憧れの存在となったりして、みんなで力を合わせて一つのことに取り組めたり楽しんだりして、共に育ち合えるような関係をつくる。 ○ 言葉力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで自然な挨拶・返事をしたり、自分の思いや考えを言葉で表現したり行動できる力を養う。 ○ 地域・学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・丹後こども園の幼児教育活動を理解してもらい、他機関との連携を引き続き進め、深めていくようにする。 ・小中学校教職員と合同研修の場が持てるような機会を作り、子どもの様子等共通理解しながら、保幼小連携がスムーズに出来るようにする。 		